

夏かぜについて

小児科 加藤 耕平

今年は春先までインフルエンザ、ウイルス性腸炎、RSウイルス感染などの流行が続き、ご家族皆さんが大変だったご家庭もあったことかと思えます。最近では感染症の季節性があまりなくなっているとも言われていますが、今回は夏に向けて流行が始まる感染症についてお話ししたいと思います。

一般的に小児科医が「夏かぜですね」というときは、主に「ヘルパンギーナ」「手足口病」「咽頭結膜熱(プール熱)」を指して使うことが多いと思います。

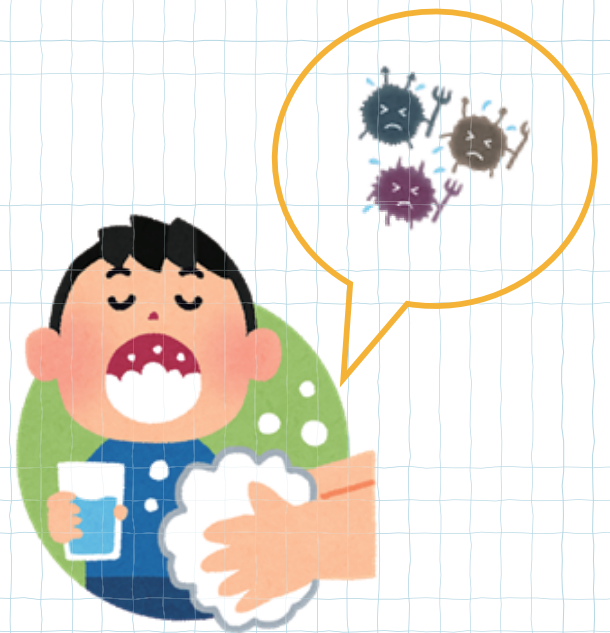
「ヘルパンギーナ」と「手足口病」はエンテロウイルス属、というウイルスの種類によって起こります。エンテロウイルス属の中には非常に多くの種類のウイルスがあり、はっきりとヘルパンギーナや手足口病と診断できる症状を起こす場合もありますが、感染しても症状がない場合(不顕性感染)や、なんとなくかぜ症状があるだけではっきりと診断がつかない場合も多いといわれています。ヘルパンギーナであれば高い熱が出て、喉の奥に小さな潰瘍(アフタ)ができるのが特徴で、のどが痛くて食べ物が食べにくかったり、小さなお子さんではよだれが飲み込めなくて垂らしながら移動する、といった症状がみられることがあります。

手足口病では同じく発熱、口の中のアフタのほかに手足やお尻などに発疹が出るのが特徴です。いずれにしても診断は特徴的な症状や診察の所見によりますが、治療については特効薬がなく自然に治っていくのを待つことになります。水分摂取が難しくぐったりしてしまったり、時に熱と

ともに痙攣が起こるようなお子さんでは検査や入院が必要になることがあります。

「咽頭結膜熱(プール熱)」は、「のど(咽頭)が腫れて目(結膜)が充血して熱が出る」病気で、アデノウイルスが原因になります。昔は夏場プールの水を通して感染するとされて「プール熱」と言われていましたが、プールの水は塩素濃度がしっかりと管理されていれば感染しないため、その途中の手すりやドアノブ、またタオルなどを介して感染する「接触感染」が多いとされています。咽頭結膜熱の診断は、症状とアデノウイルスの迅速検査で行いますが、ウイルス感染のためやはり特効薬はなく、自然に症状がよくなるのを待つこととなります。

夏かぜのウイルスは、症状がよくなっても数週間は便の中にウイルスが排出されるといわれています。夏かぜにかからないために、また家族やほかのお子さんに感染を広げないためにも、普段から手洗いやうがいの習慣を身につけましょう。



平成30年5月28日(月) グランドオープン

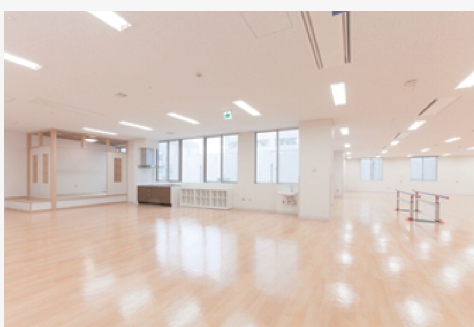


鳥取赤十字病院はこの度、Ⅱ期工事が完了し、全館グランドオープンの運びとなりました。工事中は、皆様に大変ご迷惑をお掛けしましたが、新しくなった正面玄関はとりぎん文化会館側になり、明るい日差しが降り注ぐ設計となっております。また、病棟の一体化をはじめとした効率の良い動線と機能の集約化をすることにより、患者さんに安心・安全、快適な療養環境となっております。さらに、災害拠点病院として、災害時には避難者の受入れができるよう、多目的ホール・ホワイエ・総合待合・リハビリセンターに医療ガス設備を整備し、万全の体制を整えております。

ぜひ新生・鳥取赤十字病院を今後ともよろしくお願い致します。



多目的ホール



リハビリセンター



災害時用医療ガスコンソール



西病棟：二十世紀梨をイメージ



東病棟：ラッキョウの花をイメージ



明るいディールーム

【グランドオープン記念 特別メニュー】

グランドオープンを記念して、5月28日(月)に特別メニュー(祝い膳)を昼・夜と提供しました。特別メニューには院長からのメッセージも添えられ、赤飯や造り、真鯛を使用した蒸し物、野菜は飾り切りなども施し、豪華な食事となりました。



〔献立〕昼
小鉢 青梗菜海苔和え
造り 鯖炙り、あしらい一式
炊き合せ 鶏桑焼、海老具足煮、高野豆腐、南瓜、絹さや
蒸し物 鯛そば(鯛、ねばりっこ、菜の花)
飯 赤飯(小豆粥)



〔献立〕夜
小鉢 変わり木の芽和え
汁 あさりの赤だし
旬野菜の天ぷら (筍、タラの芽、舞茸)
寿司三種 巻き寿司、いなり寿司、手作り手まり寿司